

## 11月7日 塩田県知事とのふれあい対話

オーガニック・エイ 西牟田幸治

高齢化や過疎化、耕作放棄地の増加などが急速に進む、ここ南九州市の活性化のための一助になればと、ここ一年取り組んで参りました事柄についてお話ができたらと思います。

1. オーガニック農法を活用したさつま芋基腐病**対策**の現状と新しい知見について。
2. 南薩地域におけるインフラを活用した新鮮野菜の流通とその課題、高付加価値農産品の取り組みなど。
3. 固定資産（田畑、山林、家屋、農耕機械など）の流動化について。

# 実際に基腐病に侵されたサツマイモの苗

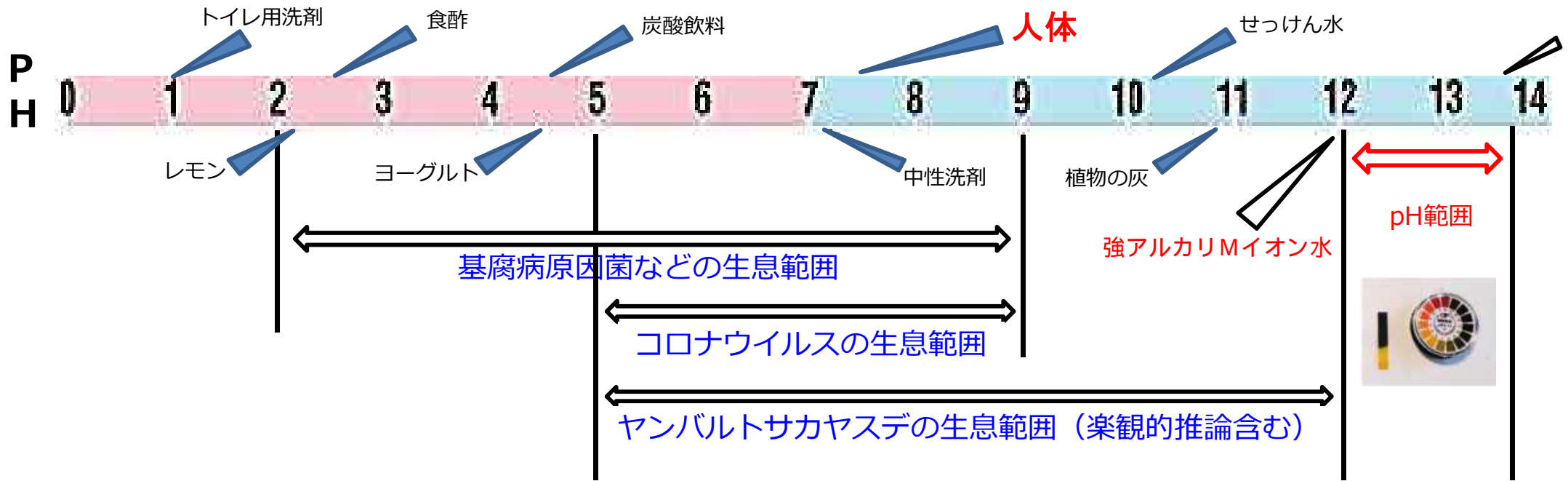


正常なサツマイモの苗



基腐れ病に侵されたサツマイモの元苗

基腐病（もとくされびょう）と言う名の通り、サツマイモの**苗の根が黒く腐食している**



・カビ 活動pH=5.0~6.5     
 ・一般細菌 活動pH=6~7     
 ・ウイルス 活動pH=5.0~9.0     
 ・人体pH=7.4

### 課題解決の為のpH(アルカリ性や酸性)ポイント

1、カビや菌は、pH2.0~9.0の広い範囲で生育し、細菌は大部分が中性付近のpHで最も生育

2、昆虫の消化液pH5.0~9.0。ヤンバルトサカヤスデは、ヤスデ類の中で競争環境で進化した為、かなり強い生命力を持つ。生命力は体の大きさに比例するので、アルカリ濃度の高いOG水を使用した方が、より確実性が高い。

3、コロナウイルスを含むウイルスは、pH5.0~9.0の間では安定上にある。よって逆説すれば、pH2.0以下やpH9.0以上だとウイルスや細菌は不安定状態になり、その活動を死活(活動不能)へさせる事が可能

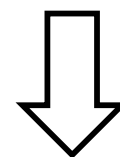
参考① 株式会社東邦微生物病研究所～微生物とpH  
 参考② 動物と人のコロナウイルス (北里大学)

参考③ 外来種ヤンバルトサカヤスデの生態と大発生 (信州大学)  
 参考④ 昆虫の加水分解酵素 (九州大学)

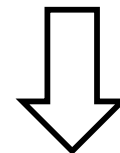
# サツマイモ基腐病対策実験経過観察



強アルカリMイオン水に20分間浸したサツマイモの元苗を2月に畑に作付け



2カ月経過し現時点で基腐病の症状無し。症状が現れても強アルカリMイオン水液の追加散布で症状消滅



6月の梅雨時期が過ぎた収穫時期までに、引き続き油断せずに実証を進める

**結果** この時点で同じ時期に作付した他田畑のサツマイモは、全て基腐病が現れており、現時点での情報を総合的に加味すると、強アルカリMイオン水が唯一、基腐病の糸状菌を防いでいることになる。

実験場所：宮崎県K市 報告者：深江一美様

強アルカリMイオン水に20分浸し本年2月に作付した  
サツマイモ基苗が成長している様子（2021年5月7日撮影）



作付して3カ月近く経過。現状、周辺のサツマイモ農家の中で、  
唯一、**基腐病は発症していない。**



6月23日深江さん初収穫、JA 6等級の評価。



南九州市 5月30日植え付け



7月3日 生育の状況







8月17日 集中豪雨



蔓延する基腐病



最近の収穫後の放棄されたさつま芋

# 放棄されたさつま芋の拡大写真



